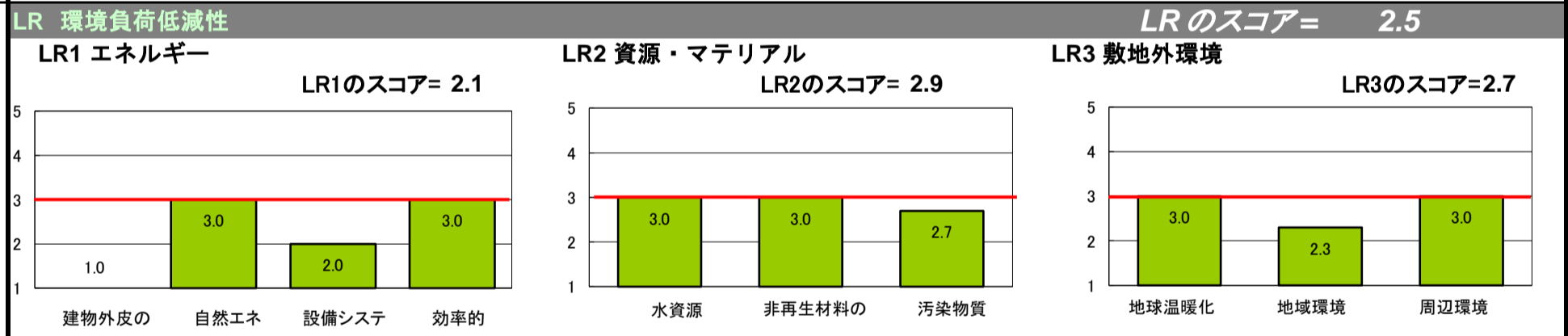
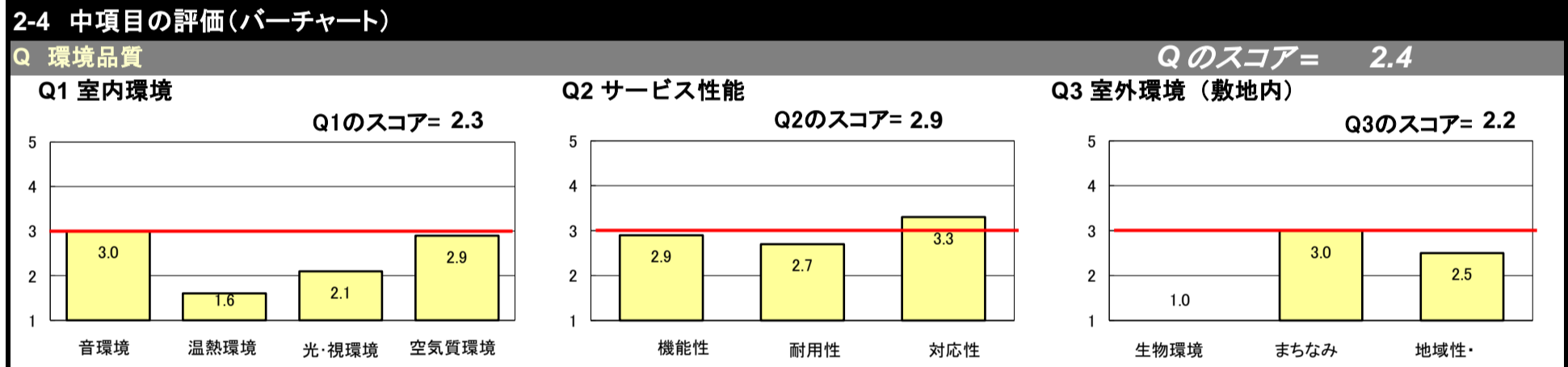
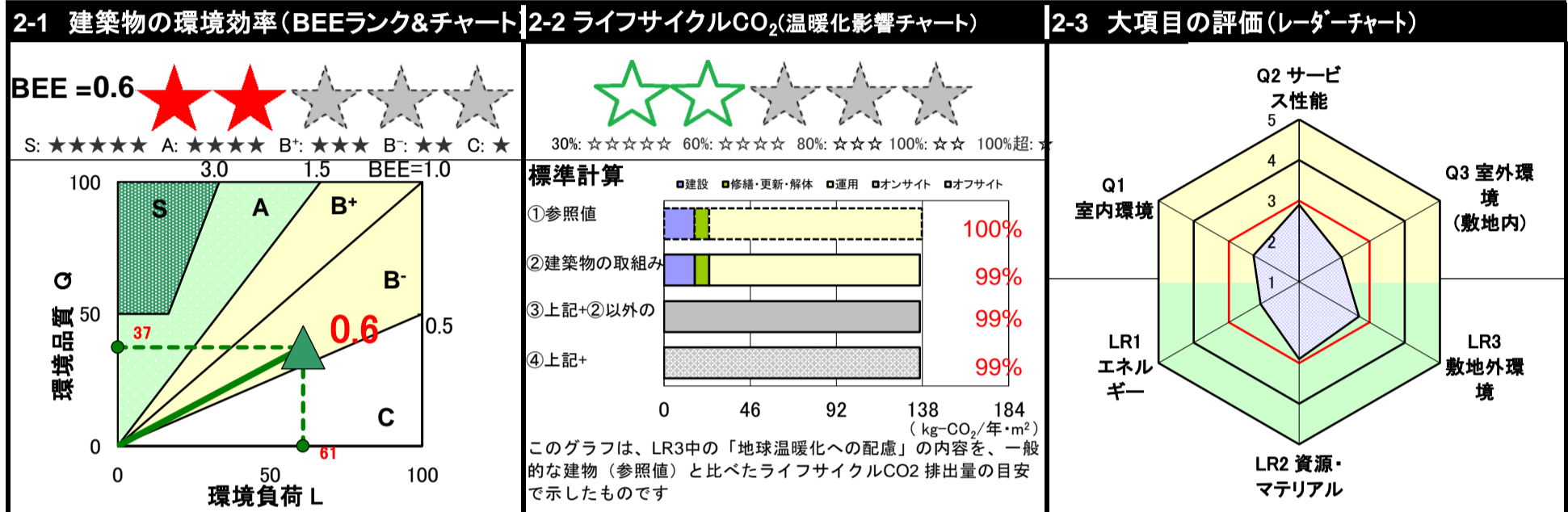


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋トヨペット春日井店	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県春日井市篠木町八丁目 2967-6外4筆	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	事務所、物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年4月1日
敷地面積	5,210 m ²	作成者	寺田 穂
建築面積	3,025 m ²	確認日	2020年4月6日
延床面積	3,232 m ²	確認者	河合あかね



3 重点項目

①地球温暖化への配慮 <p>3.0</p>	③敷地内の緑化 <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>10.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.1 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.1 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
②資源の有効活用 <p>2.9</p>	④地域材の活用 <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点
Q 建築物の環境品質															
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル															
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能															
2 界壁遮音性能															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
2 温熱環境															
2.1 室温制御															
1 室温															
2 外皮性能															
3 ゾーン別制御性															
2.2 湿度制御															
2.3 空調方式															
3 光・視環境															
3.1 昼光利用															
1 昼光率															
2 方位別開口															
3 昼光利用設備															
3.2 グレア対策															
1 昼光制御															
3.3 照度															
3.4 照明制御															
4 空気質環境															
4.1 発生源対策															
1 化学汚染物質															
4.2 換気															
1 換気量															
2 自然換気性能															
3 取り入れ外気への配慮															
4.3 運用管理															
1 CO ₂ の監視															
2 喫煙の制御															
Q2 サービス性能															
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ															
1 広さ・収納性															
2 高度情報通信設備対応															
3 バリアフリー計画															
1.2 心理性・快適性															
1 広さ感・景観 (天井高)															
2 リフレッシュスペース															
3 内装計画															
1.3 維持管理															
1 維持管理に配慮した設計															
2 維持管理用機能の確保															
2 耐用性・信頼性															
2.1 耐震・免震・制震・制振															
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															
2 免震・制震・制振性能															
2.2 部品・部材の耐用年数															
1 躯体材料の耐用年数															
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															
6 主要設備機器の更新必要間隔															
2.4 信頼性															
1 空調・換気設備															
2 給排水・衛生設備															
3 電気設備															
4 機械・配管支持方法															
5 通信・情報設備															

3 対応性・更新性				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高を4.2mとすることで、設備システムの変更が可能な計画とし 使用目的に応じて間仕切りを変更可能な計画とした。	-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	2.3	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②			3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	2.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	1.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.34		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	2.5
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	2.1
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	1.0	0.26		-	-	1.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.16		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				3.0	2.0	0.39		-	-	2.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水				3.0	3.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63		-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-		3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能、仕上げ材に自然素材を用いて		3.0	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.7	0.22		-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.6	0.68		-	-	
1	消火剤				2.0	0.33		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33		-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.33		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮		①			3.0	0.33		-	-	3.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.3	0.33		-	-	2.3
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自			3.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自			3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自			-	-		-	-	
3	悪臭				-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制				3.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.10	外構緑化:10.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 名古屋トヨペット春日井店

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・前面道路や周辺建物とその調和性を意識し、低層の建物となるように配慮した。 ・前面道路や敷地境界部に緑地帯を設けることで、周辺環境との調和を図るとともに、緑豊かな街並み形成に寄与できるように配慮した。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・前面道路に面する南東側を前面ガラスのカーテンウォールとすることで、室内が明るく開放的な空間となるように計画した。 ・汚染物質を発生させにくい内装材を選定し、室内空気を健全に保てるように配慮した。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・階高や内部空間をゆとりのある計画とし、将来のレイアウト変更や設備の更新に対応できる計画とした。 ・内装・外装共に、防汚性や防食性のある素材を採用し、維持管理のしやすい建築物となるよう配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・前面道路や周辺建物とその調和性を意識し、低層の建物となるように配慮した。 ・道路に面する部分には緑地帯を設け、道路との連続性を考慮した。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・建物で消費されるエネルギーが年間を通じて把握できるように計画した。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・節水コマを取り付け、節水に努めた。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の隣棟間隔を工夫し、風下地域への風通しに配慮した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし